

【団体名】安城市立今池小学校

【事業名】「身近な環境 水田・水路の生物多様性」

【事業の目的】小学生に水田や水路で、生物多様性や米作りに関わる調査・見学等を体験することで、未来の市民として、地域の環境や食料について考える視点を育てる。

【実施内容】

- 1 上倉用悪水の生き物探しを行った。
- 2 兎用水の生き物調べを行って、上倉用悪水にはいなかった種類の魚を捕まえることができた。上倉用悪水とは異なる生き物を観察したことで水質の違いと関係があることがわかった。
- 3 明治用水会館主催の「せせらぎサミット」で学習の成果を発表できた。
- 4 三河昆虫研究会の大平仁夫先生に講演をしてもらい、昔の自然の様子を詳しく聞くことができた。
- 5 名古屋大学でホタルの研究をしている大学院の大場裕一先生に講演をしてもらい、ホタルの魅力や飼育方法、自然に放す際の注意を教えてもらった。先生が持参された本物のヘイケボタルに生徒たちは驚いた。先生の指導により、三河地方産の発光ミミズ・ホタルミミズが学校敷地内で見つかった。（1 月 26 日中日新聞県内版に掲載）
- 6 3 学期に行われた「子ども学ぼう会」の発表会で他の学年や保護者に発表した。
- 7 9 月 13 日全校児童で「上倉ゴミ拾い大作戦」を行った。今年で 5 回目を迎え、今池町内会、明治用水土地改良区、今村環境保全会、ニッスイ安城工場など地域の方々や清掃事業所などの協力を得て少しずつ活動の輪がひろがりつつある。



【成果・課題】

子供たちが身近な地域に出て、環境や農業に関わる体験を持つことで、環境に対する意識を高めたり、環境を考えたりするための具体的な視点を持たせることが出来た。地域の大人との共同的な活動を通して、地域社会の一員としての意識を高めることが出来た。